

IMS®で空気充てん

IMS® (タイヤパンク応急修理キット) はパンク修理だけでなく、付属のエアコンプレッサーで、タイヤの空気充てんも出来ます。



タイヤの空気充てん方法



1 空気圧の適正値は、車両のドア付近に表示されています。
※車種により表示位置が異なりますので、詳しくは車両オーナーズマニュアルをご確認ください。



小サイズ
エアコンプレッサー
(6A)

大サイズ
エアコンプレッサー
(12A)

2 IMSコンプレッサー(小or大)を準備します。走行途中で空気圧調整をする時は、自動車メーカー指定空気圧より20-30KPa高めに調整する事をおすすめします。



3 タイヤのバルブキャップを外し、ボトルホースをバルブに差し込みます。



4 電源プラグをアクセサリースOCKET(シガーソケット)に差し込み、車のエンジンをかける、または車をONモードにしてください。



スイッチONでメモリが上昇

スイッチON

5 コンプレッサーのスイッチをONにし、適正空気圧まで空気を充てんしてください。

スイッチON

※大サイズのスイッチはコンプレッサーの側面にあります。



※空気漏れがある場合、泡が膨らみます。

6 バルブからボトルホースを外し、バルブキャップを取り付けて完了です。

※バルブコアの空気漏れが心配な場合は、石鹸水などを吹きかけ空気漏れがないか確認後、バルブキャップを取り付けてください。

空気を入れすぎてしまった時、タイヤの空気を抜く方法

小サイズ

- 1 バルブからバルブキャップを外します。
- 2 ボトルホース先端に付属の空気圧排気キャップをねじ込みます。
- 3 空気圧排気キャップの突起部をバルブに押し当てて空気を抜いてください。



突起部

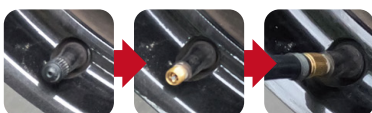
空気圧排気キャップ

ボトルホース



大サイズ

- 1 バルブからバルブキャップを外し、ボトルホースをバルブに差し込みます。



- 2 電源プラグをアクセサリースOCKETに差し込み、車のエンジンをかける、または車をONモードにしてください。

- 3 コンプレッサーのスイッチはOFFにしたまま、減圧ボタンを押して空気を抜いてください。

スイッチOFF



減圧ボタン



タイヤの空気圧点検

空気圧点検は、月に一度の点検が目安となります！

IMS®付属のエアコンプレッサーで適正空気圧に調整して、安全で快適なドライブを♪

空気圧点検の重要性

5台に1台はパンクの危険性が!?

2022年4月実施の「DUNLOP全国タイヤ安全点検」で点検された車両1,370台中、パンクや破裂などタイヤトラブルの原因となる「空気圧の過不足」を初めとする整備不良が20.1%(5台に1台)見つかりました。タイヤは車と路面が接する唯一の部分です。万一タイヤトラブルなどが発生した場合、大事故を引き起こす可能性もあります。定期的な空気圧点検をすることでタイヤが本来の性能を発揮でき、快適で安全なドライブにつながります。

整備不良の内訳

- 1位 空気の過不足 (11.5%)
- 2位 表面の損傷 (9.9%)
- 3位 偏摩耗 (4.5%)
- 4位 残溝の不足 (2.2%)

※DUNLOP全国タイヤ安全点検より
(実施期間:2022年4月8日~4月24日)

空気圧点検の仕方

適正な空気圧(指定空気圧)の調べ方

空気圧の適正值は、車両のドア付近に表示されています。また、自動車のオーナーズマニュアルなどにも記載されています。不明の場合は、タイヤ専門店にご相談ください。

※車種によって表示位置が異なりますので、ご使用の車でご確認ください。

タイヤが冷えている状態で点検しましょう。

空気圧の測定は、走行前のタイヤが冷えた時に実施しましょう。バルブの空気漏れ点検も忘れずに行ってください。

最低でも月に1度は点検をしましょう。

タイヤの空気は、自然と抜けてしまいます。タイヤの分子構造よりも空気の分子が細かいからです。そのため、最低でも1か月に1度は空気圧を点検してください。空気の代わりに窒素ガスを充てんすると、空気圧の低下を抑制できます。



空気圧が不足していると…

1 走行性能が低下する



2 燃費が悪化する



3 偏摩耗発生の原因になる

ショルダー摩耗



空気圧過多になっていると…

1 乗り心地が悪化する



2 衝撃によるキズを受けやすくなる



3 偏摩耗発生の原因になる

センター摩耗

